Economic Indicators

発表日:2021 年 11 月 5 日(金)

主要経済指標予定(2021 年 11 月 8 日～11 月 12 日)

(株)第一生命経済研究所　経済調査部
日本経済短期チーム(TEL:03-5221-4525)

(11 月 8 日～11 月 12 日の主なイベント、指標予定)

		指　標　名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果
11 月 8 日　(月)	8:50	日銀金融政策決定会合「主な意見」(10 月 27・28 日分)				
	14:00	9 月消費活動指数(旅行収支調整済)実質季節調整済み(前月比)	—	—	—	▲2.1%
	14:00	9 月景気動向指数・速報				
		CI 一致指数(前月差)	▲3.8pt	▲3.8pt	▲4.0pt～0.0pt	▲3.1pt
		CI 先行指数(前月差)	▲1.4pt	▲1.6pt	▲2.3pt～▲1.2pt	▲2.8pt
11 月 9 日　(火)	8:30	9 月毎月勤労統計				
		名目賃金(前年比)	—	—	—	＋0.6%
	8:50	10 月貸出・預金動向				
		国内銀行貸出残高(前年比)	—	—	—	＋0.4%
	8:50	9 月国際収支統計				
		経常収支(原数値、億円)	＋10,032	＋10,963	＋5,539～＋12,868	＋16,656
	13:30	9 月特定サービス産業動態統計調査				
	14:00	10 月景気ウォッチャー調査				
		現状判断 ＤＩ(季節調整値)	45.4pt	49.0pt	45.4pt～49.4pt	42.1pt
		先行き判断 ＤＩ(季節調整値)	52.0pt	56.8pt	52.0pt～57.5pt	56.6pt
11 月 10 日　(水)	8:00	11 月ロイター短観				
		製造業ＤＩ	—	—	—	
		非製造業ＤＩ	—	—	—	
	8:50	10 月マネーストック				
		Ｍ２(前年比)	＋4.1%	＋4.1%	＋3.9%～＋4.2%	＋4.2%
		Ｍ３(前年比)	＋3.7%	＋3.7%	＋3.4%～＋3.7%	＋3.8%
		広義流動性(前年比)	＋4.9%	＋4.9%	＋4.6%～＋5.0%	＋5.0%
11 月 11 日　(木)	8:50	10 月企業物価指数				
		(前月比)	＋0.6%	＋0.4%	＋0.1%～＋0.7%	＋0.3%
		(前年比)	＋7.2%	＋6.9%	＋5.2%～＋7.4%	＋6.3%
11 月 12 日　(金)						

９月景気動向指数　ＣＩ一致指数／ＣＩ先行指数　**当社予想：前月差 ▲3.8pt／▲1.4pt　中央値：同 ▲3.8pt／▲1.6pt**

ＣＩ一致指数を前月差▲3.8ポイントと、８月の▲3.1ポイントに続いての大幅低下を予想する。内訳では、鉱工業生産指数、生産財出荷指数、耐久消費財出荷指数、輸出数量指数など、輸出・生産関連による押し下げが非常に大きい。半導体不足や東南アジアからの部品調達難により、８月に続いて自動車の大幅な減産が実施されたことが影響する見込み。なお、内閣府によるＣＩ一致指数の基調判断は、これまでの「改善」から「足踏み」への下方修正が予想される。

（経済調査部長・主席エコノミスト：新家 義貴）

９月国際収支・経常収支（原数値）　**当社予想：10,032 億円　中央値：10,963 億円**

世界的な供給制約による自動車減産の影響で輸出が大幅に下押しされ、貿易収支が赤字幅を拡大させることで、経常収支の黒字幅は縮小する見込み。先行きについては、10 月も自動車関連の減産が続いたことから、目先の輸出は下振れる可能性が高く、輸入が輸出を上回ることで貿易収支は赤字での推移となるだろう。これにより、経常収支も黒字幅を縮小させる可能性が高い。

（副主任エコノミスト：大柴 千智）

１０月景気ウォッチャー調査　現状判断ＤＩ／先行き判断ＤＩ（季節調整値）　**当社予想： 45.4pt／52.0pt　中央値： 49.0pt／56.8pt**

10 月景気ウォッチャー調査の現状判断 DI を 45.4pt、先行き判断 DI を 52.0pt と予想する。現状判断 DI は、緊急事態宣言が全国的に解除され、月中の感染者数も低推移だったことから、小売や飲食等の家計関連を中心に 2 カ月連続の上昇となるだろう。ただし、資源高や供給制約の影響を受けている製造業での景気停滞感が足を引っ張り、緩やかな上昇にとどまるだろう。先行き判断 DI については、先月までの緊急事態宣言解除に対する楽観的な見通しが落ち着き、前月比小幅に低下するものの、足元の感染者数減少を受け、本格的な経済再開への期待により 50 近傍での高い水準が続くだろう。

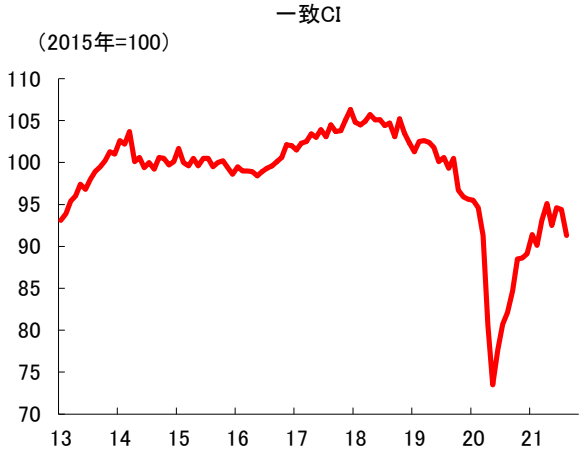
（副主任エコノミスト：大柴 千智）

１０月企業物価指数・国内企業物価　**当社予想：前年比 ＋7.2%　中央値：同 ＋6.9%**

10 月の国内企業物価を前月比＋0.6%、前年比＋7.2%と予想する。また、夏季電力料金調整後では前月比＋0.8%と予想する。世界経済の回復に伴う需給のひっ迫により、原油価格が高騰をしていることを受け、石油・石炭製品が国内企業物価を牽引するだろう。また、同様に国際市況で高値推移が続いている鉄鋼や非鉄金属もプラス寄与となるだろう。

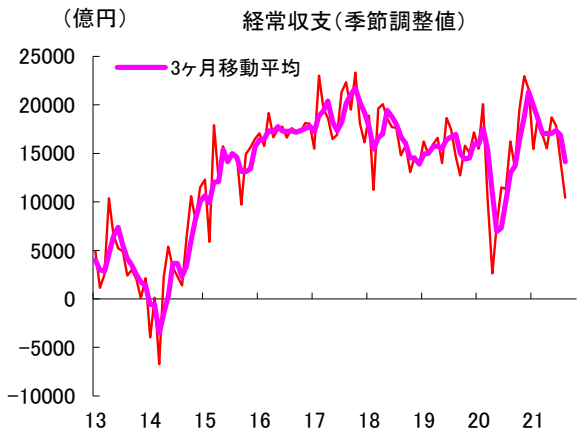
（副主任エコノミスト：大柴 千智）

図表1



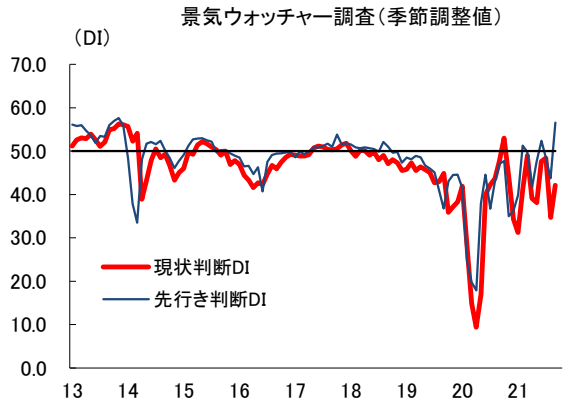
（出所）内閣府「景気動向指数」

図表2



（出所）財務省「国際収支統計」

図表3



（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」

図表4

（出所）日本銀行「企業物価指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。